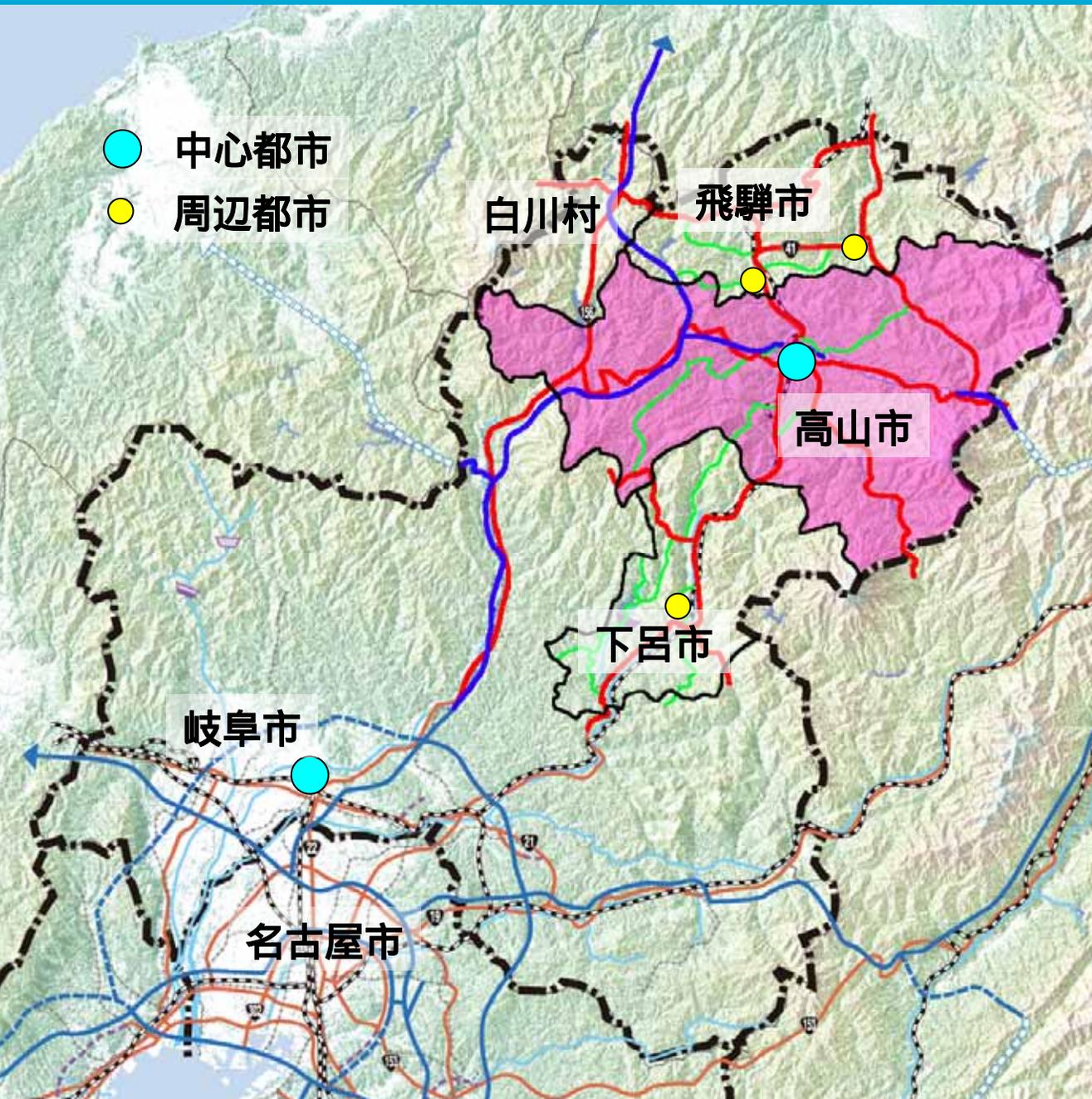


21世紀生活圈研究会 試行的調査(高山地域)

中部地方整備局
平成20年12月16日

1. 当該地域の位置付け及び調査範囲



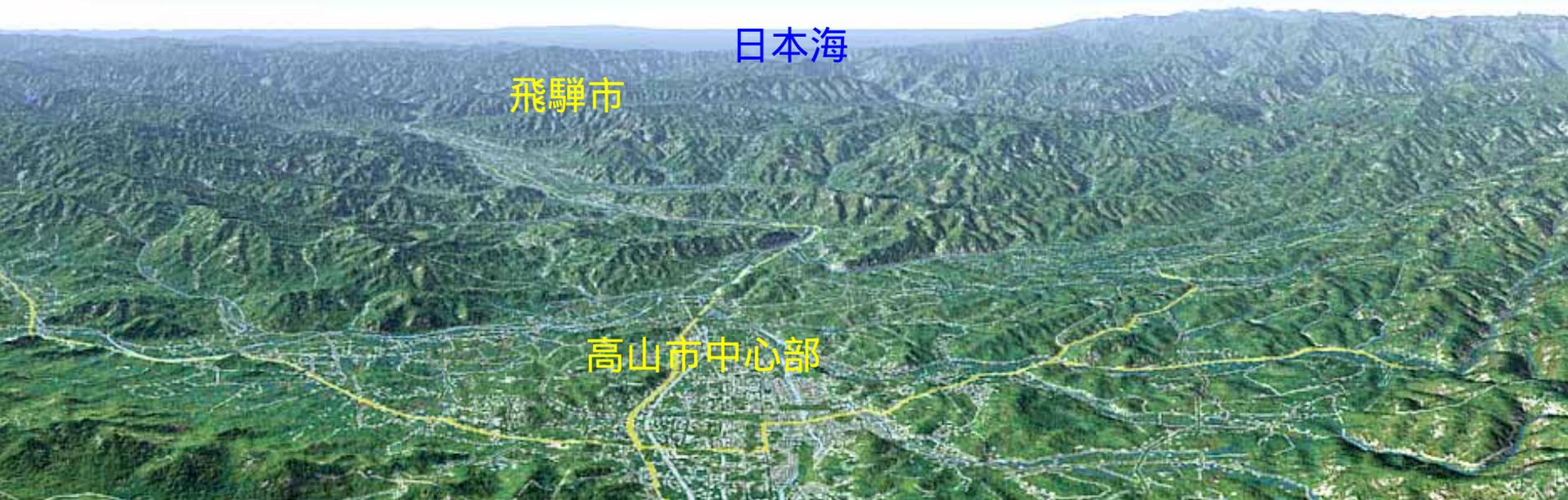
当該地域の位置付け

- ・岐阜県都市政策基本方針において、役割・機能による分類では、高山市は岐阜県北部飛騨地域の中心都市として位置付けられている。
- ・3市1村からなる飛騨地域のなかでも医療、商業、教育（高校）施設が集中しており、岐阜県北部経済の牽引役でもある。

調査範囲・・・飛騨市、白川村、下呂市

- ・高山市と飛騨市、下呂市、白川村は通勤・通学、医療、消防など様々な面で密接な関係がある。
- ・観光面でもそれぞれ地域資源に恵まれており、広域的な観光ルートを形成する上においても密接な関係がある。

2. 高山市の現況 地勢

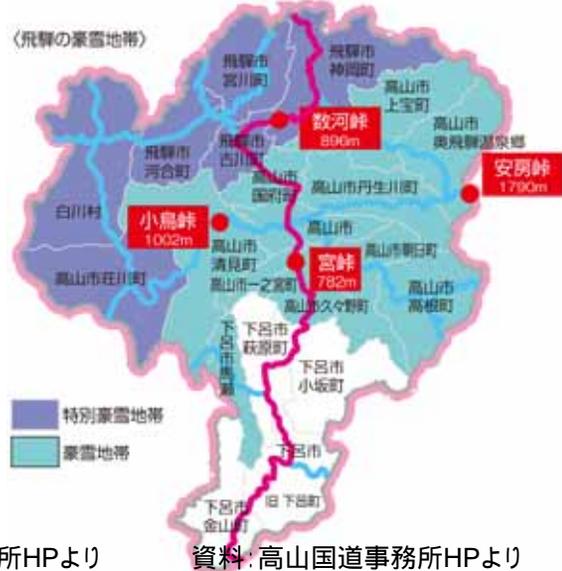
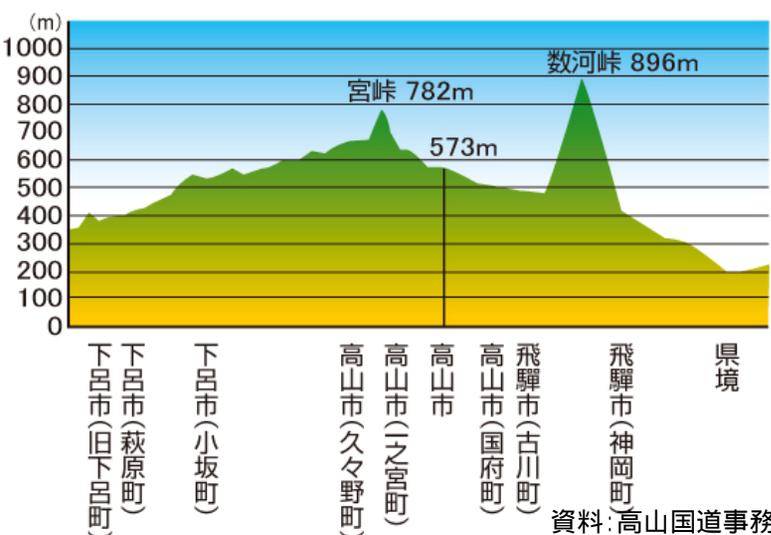


高山市は全域が標高400m以上で高根町は標高1000mに達する。

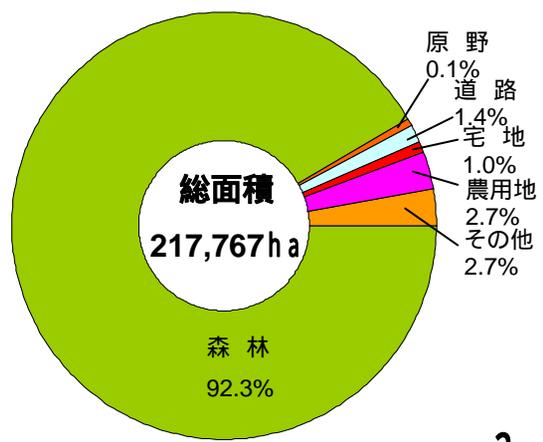
高山市は全域が豪雪地帯及び特別豪雪地帯。

土地面積は約21.7万haで、うち森林が92.3%を占めている。

<国道41号標高断面図>



高山市地目別土地面積構成比



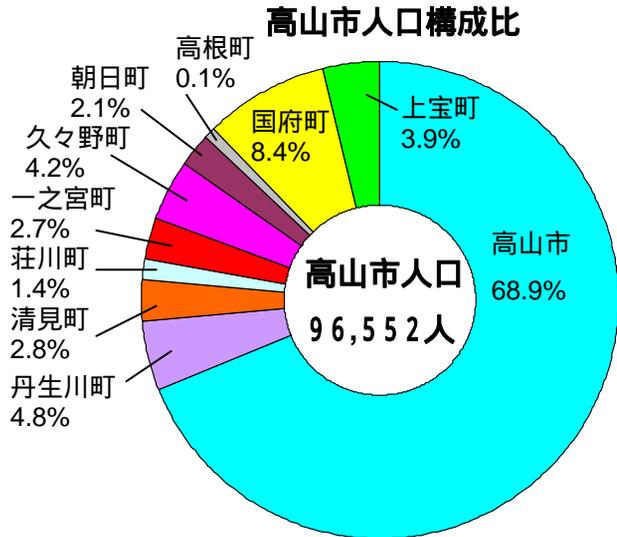
資料: 高山国道事務所HPより

資料: 高山国道事務所HPより

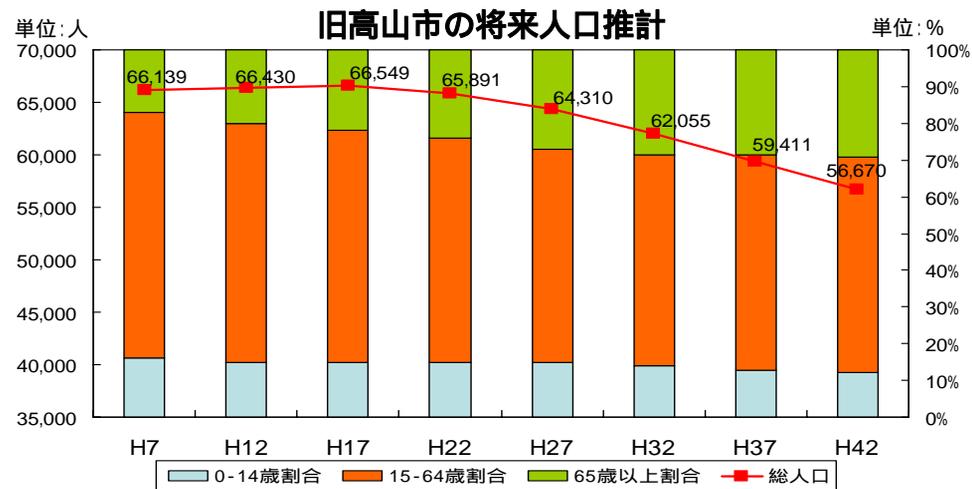
資料: 平成19年岐阜県統計書などから作成

3. 高山市の現況 人口

- ・高山市の人口は約9.7万人(岐阜県の約4.6%)。うち旧高山市に68.9%(6.6万人)と集中している。
- ・旧高山市の総人口の将来推計では平成17年を境に急激な減少が予想される。
- ・65歳以上の人口の割合は平成7年の約17%から平成42年には約30%に増加すると予想される。

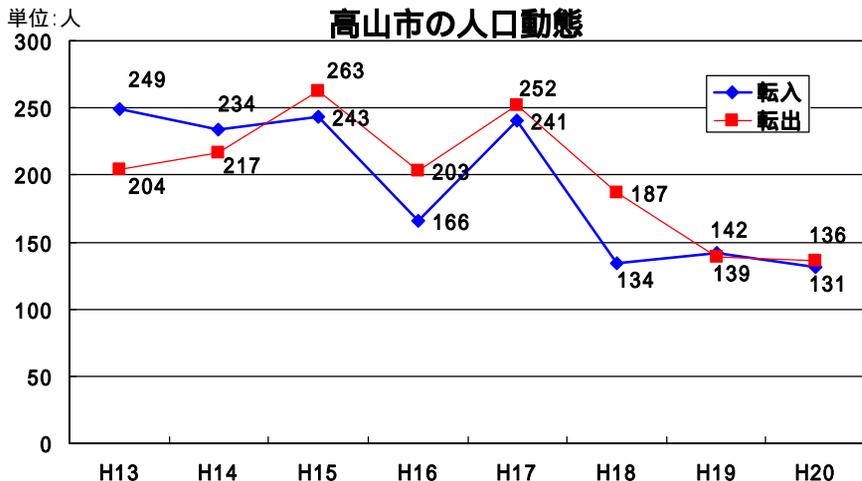


資料: 岐阜県の人口・世帯数調査結果 平成17年1月1日



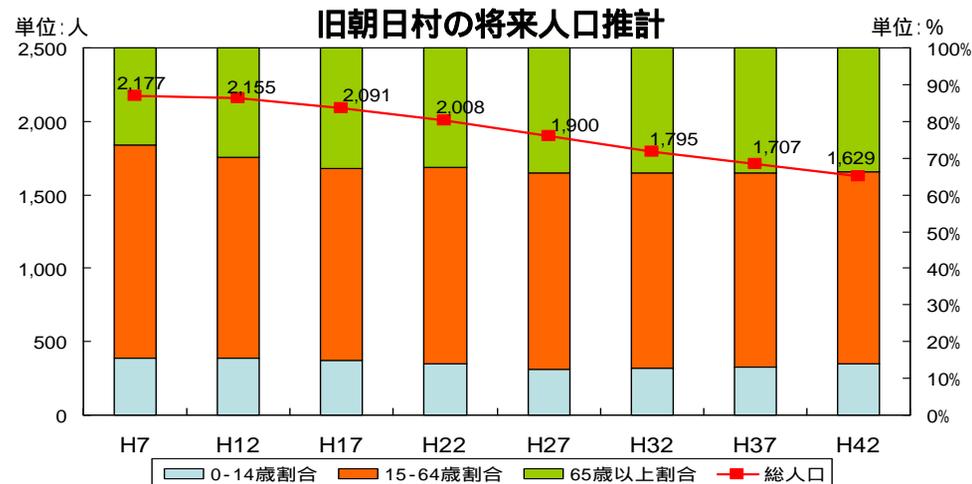
資料: 人口問題研究所 小地域簡易将来人口推計システムにより作成

注: 計算に使用したH42の合計特殊出生率はH12と同様の「1.66」としている。



資料: 岐阜県知事公室統計調査課資料より作成

注: H17以前は旧町村間の動態を含む。

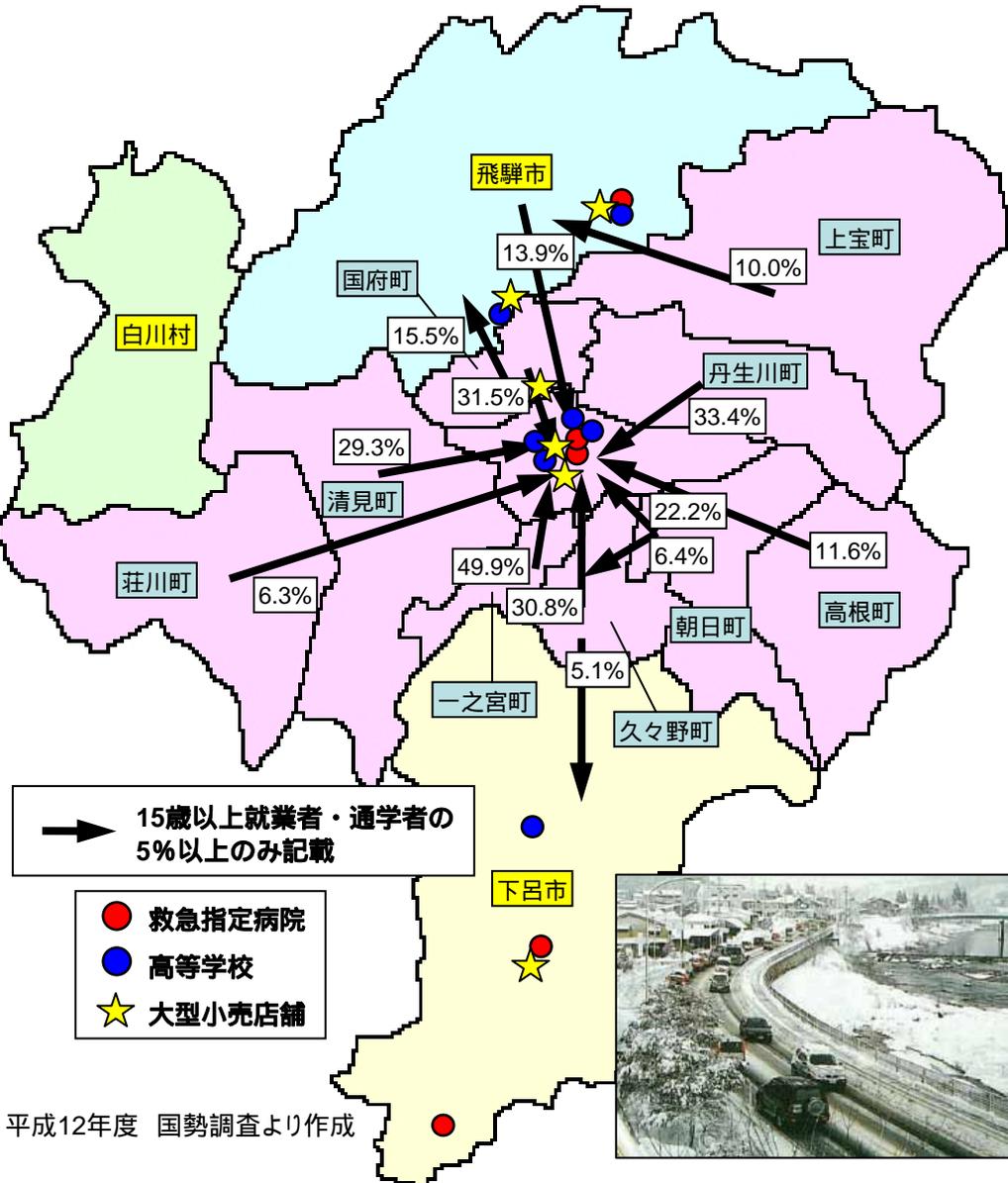


資料: 人口問題研究所 小地域簡易将来人口推計システムにより作成

注: 計算に使用したH42の合計特殊出生率はH12と同様の「1.76」としている。

4. 飛騨地域の通勤・通学動態

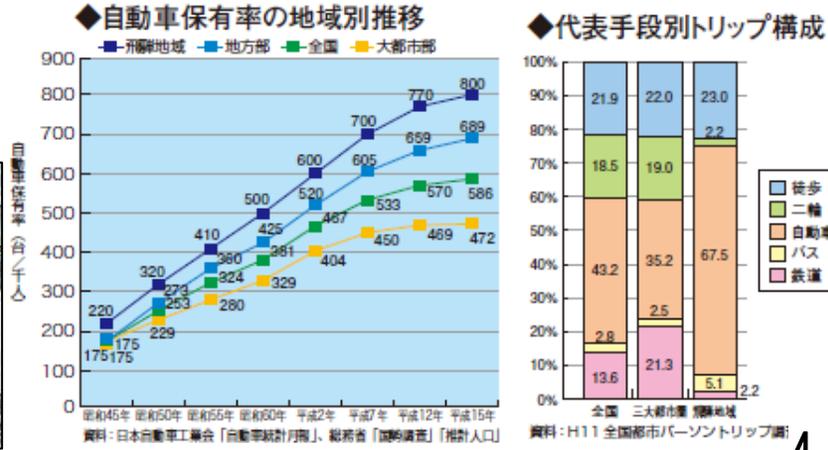
★ 高山市を中心とした生活圏域の通勤・通学動態



高山市縁辺部の地域では、隣接する市村とのつながりがみられるが、従業員数30名以上の製造事業所、高等学校が旧高山市に集中していることから、周辺地域からの流入が旧高山市中心となっている。
また、高次医療施設や商業施設も旧高山市に多いことから日常的な流入も旧高山市が中心となっている。

自動車保有率が0.80台/人(全国平均の1.37倍)であり、移動のほとんどを自動車に依存している。また、飛騨地域の約8割が豪雪地帯又は特別豪雪地帯であることから、交通の安全性・確実性が求められている。

●自動車保有率0.80台/人(全国平均の約1.37倍)



平成12年度 国勢調査より作成

5. 飛騨地域の主な地域資源

・豊富な地域資源と伝統文化、観光を融合した新たな広域観光圏を形成。
伝統文化を絶やさず、古里に愛着を持ってもらうよう地域住民が主体となって保全・継承に勤める。
農林畜産物のブランド化を進め、産業を活性化させることで魅力、認知度の向上を図る。



白川村 白川郷 (150万人/年)



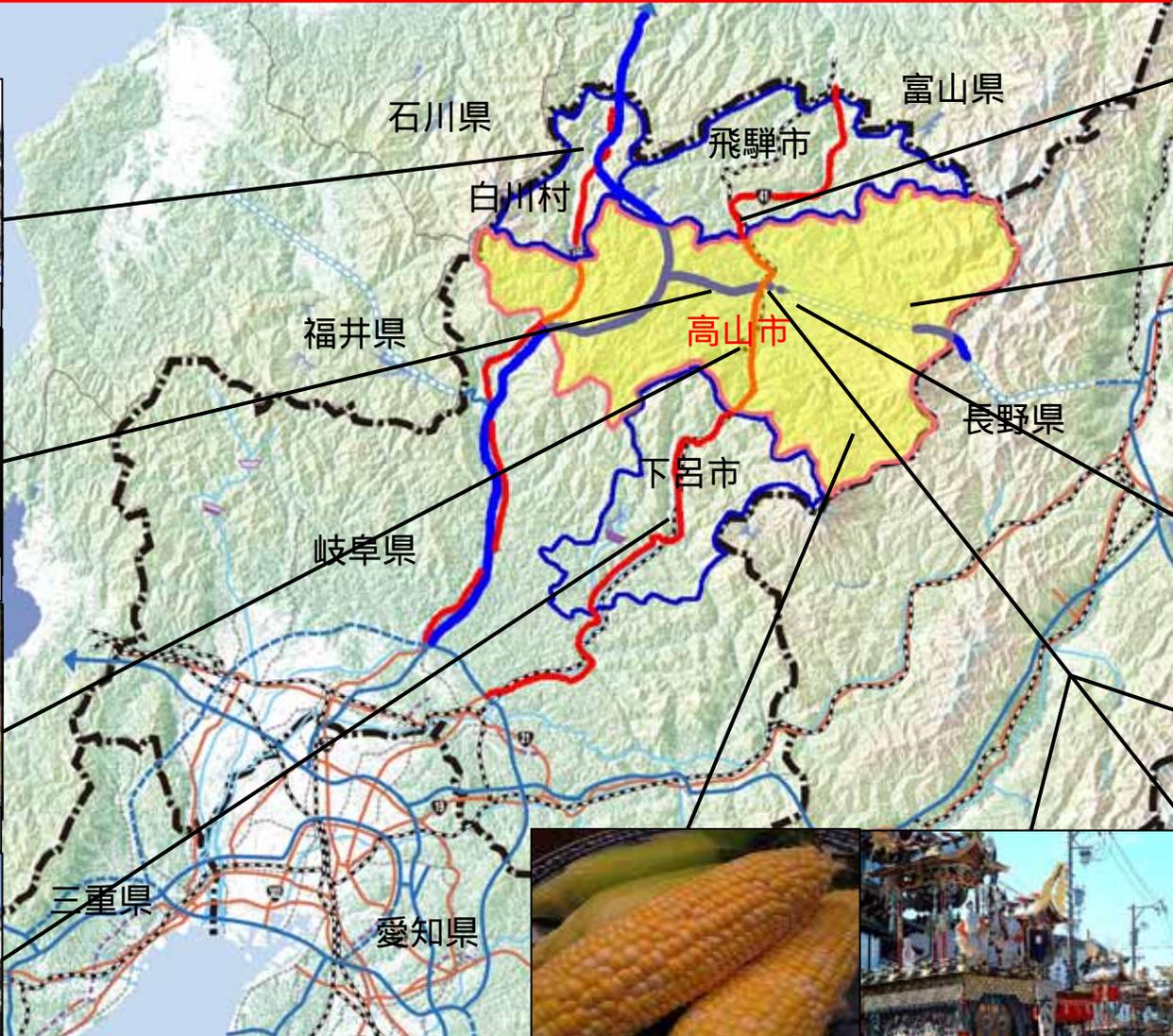
高山市清見町 飛騨牛



高山市一之宮町 臥龍桜



下呂市 下呂温泉 (311万人/年)



飛騨市 白壁土蔵街 (37万人/年)



高山市 奥飛騨温泉郷



高山市丹生川町 トマト



高山市 古い町並



高山市 高山陣屋 (32万人/年)



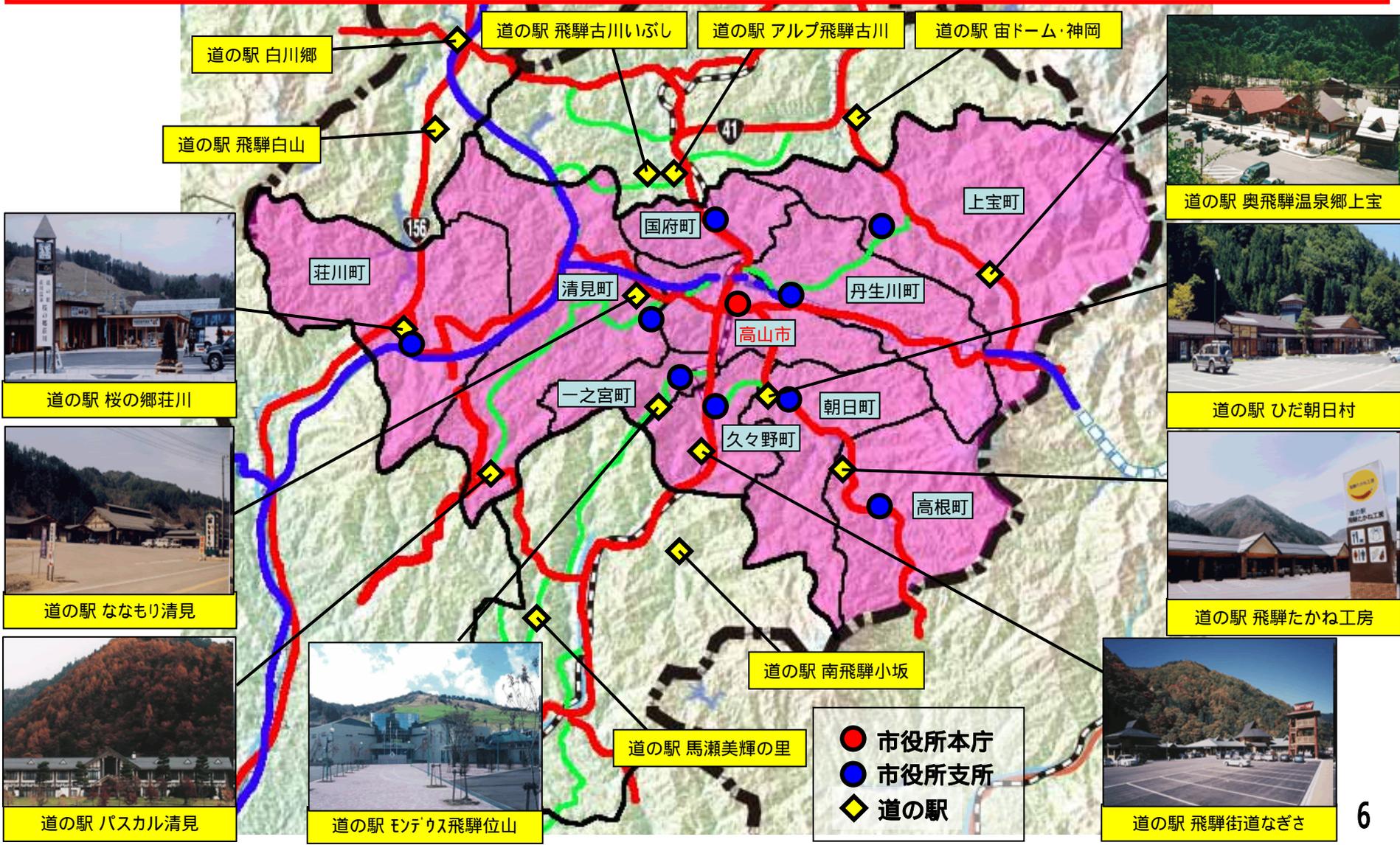
高山市高根町 タカネコーン



高山市 高山祭 (44万人/年)

6. 公共施設・道の駅及び交通網

・合併後、高山市役所を本庁舎とし、旧町村役場を支所として行政サービスを提供している。
 ・高山市には道の駅が8施設あることから、この施設を情報発信拠点とし、地域資源(農林畜産品など)の販売及び紹介をするとともに各地域の伝統文化、観光を融合した新たな広域観光圏の形成を図る。

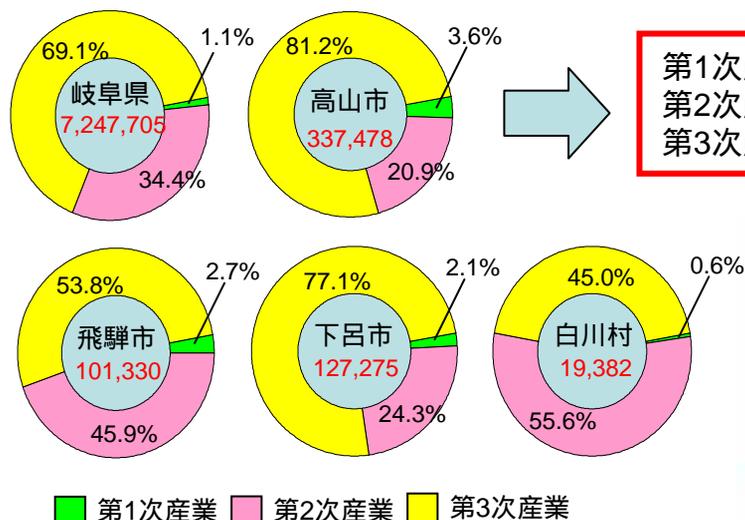


7. 産業構造 (産業別総生産額)

★ 高山市を中心とした地域の産業構造 (市町村内総生産額の構成)

観光産業が中心である飛騨地域の中でも、古い町並みや奥飛騨温泉郷を擁する高山市は第3次産業のサービス業が主力。その他の地域では第1次産業(農業、林業)の割合が大きい。
 第2次産業では、建設業が製造業とともに基幹産業となっている。
 現在、新たな試みとして飛騨地域において、世界に通用する「飛騨の匠」の技と文化を飛騨地域ブランドとして広域観光ルート「飛騨の匠街道」を推進している。
 また、地方の元気再生事業として、公共事業の減少傾向がつづく建設業者と後継者不足に悩む林業者が組み、環境保全と経済活動の両立を目指す「林業改革モデルプロジェクト」を実施している。

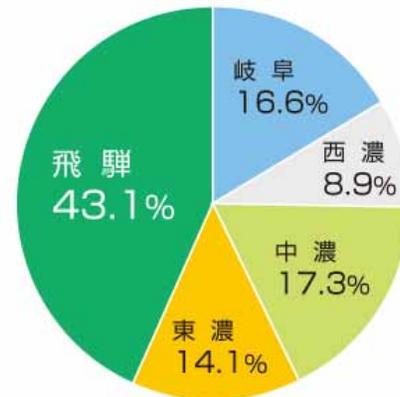
産業別総生産額の割合 単位:百万円



第1次産業の内訳 (農業 88.4%, 林業 9.6%, 水産業 2.0%)
 第2次産業の内訳 (製造業 63.7%, 建設業 35.1%, 鉱業 1.2%)
 第3次産業の内訳 (サービス業 33.8%, 金融業 22.8%, 卸売・小売業 14.1%)

資料:平成17年度 岐阜県の市町村民経済計算より作成

観光産業の現状

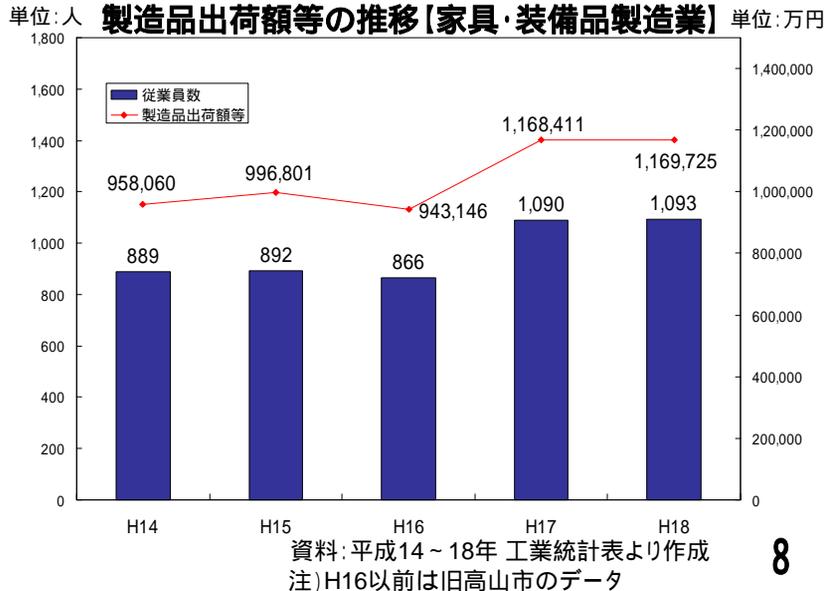
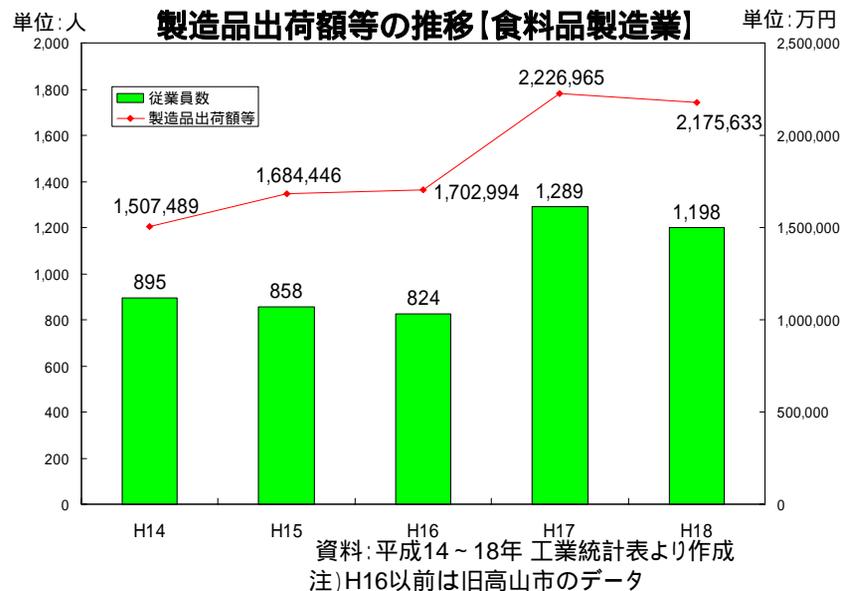
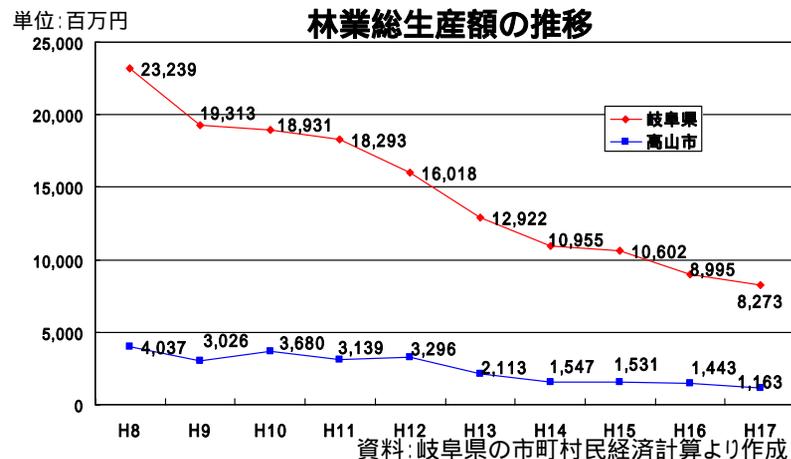
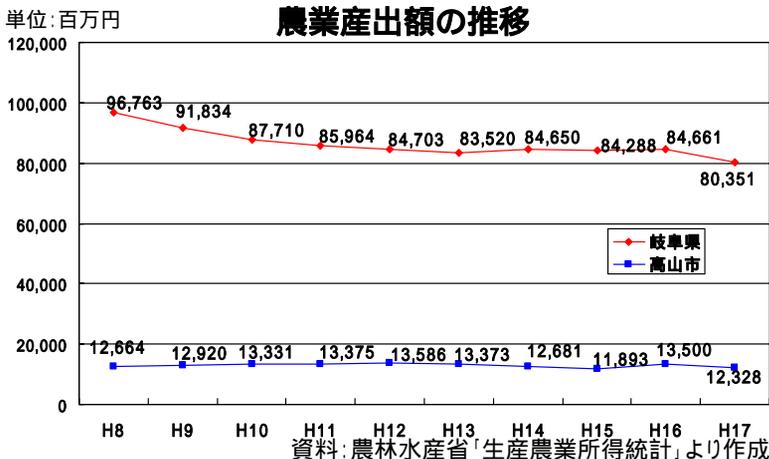


〈平成15年度観光消費額の構成比〉

資料:平成14年観光レクリエーション動態調査 資料:高山国道事務所HPより

8. 産業構造 (農業及び林業)

- ・農業産出額は岐阜県内トップを誇り、岐阜県全体の約16%を占めている。
- ・食料品製造業の出荷額は合併後も微減ではあるが高い水準を維持している。
- ・林業総生産額は減少傾向であるが、岐阜県全体の約14%を占めている。飛騨地域では約34%にのぼる。
- ・家具・装備品製造業の出荷額は合併後も横ばいで推移している。



9. 現地調査(ヒアリング)での主な意見

農林業関係

- ・ブランド米の産地として、この地域の活性化に繋げたい。
- ・道の駅などの販売所やインターネットでも販売している。
- ・農業だけでは農繁期の人手の確保などに固定費がかかる。
- ・水路などの施設の老朽化が問題であり、そこは行政に面倒見てもらいたい。
- ・地域材(広葉樹)が少なく、木工・家具産業に提供し切れていない。
- ・木工・家具で160億円/年、高山市の産業の約2割にあたる。

観光関係

- ・外国人や障害を持った方の受け入れ体制の充実にあたり、言葉や施設のバリアフリーに取り組んでいる。
- ・東海北陸自動車道の全開通により2%入り込み客数が増えた。
- ・市町村合併により歴史・文化に自然がプラスされたので、グリーンツーリズムなどにより滞在時間を増やしたい。
- ・おもてなしの心、人づくりが重要。
- ・シルバー人材センターの人によるおもてなし案内人など、地域の人が自発的に行っており、高山にはそういう土壌がある。

行政関係

- ・平成17年に1市9町村が合併して今の高山市となった。地域ごとの文化がそれぞれあるが、市としての一体感を持つことが重要。
- ・文化や今まで旧町村でやってきた取り組みも伸ばしていかないといけない。
- ・最近では祭などのイベントや組合などを自主的にまとめたりする動きが出てきた。
- ・東海北陸自動車道が開通し、東海から北陸に目が向いてきた。経済効果は7000億円/年とも言われ、中間地点である高山市として何ができるか考えていかなければいけない。
- ・産業や観光でも富山の先にあるアジアやロシアへ向かうにあたり日本海は重要。
- ・中部縦貫自動車道が長野まで開通すれば関東方面へという思いはある。

当該地域の課題・調査方針

就業機会の減少、定住人口の減少による限界集落化

飛騨地域の基幹産業の一つである建設業(従事者14.5%)は、公共事業の削減等により疲弊。豪雨災害等の緊急時の対応や冬期の除雪等雪寒対策への影響が懸念される。

飛騨地域は豊富な地域資源に恵まれ日本有数の観光地であり、交通ネットワークを活かした広域観光圏づくり

世界遺産である白川郷、高山・古川の古い町並みや祭り、温泉地やスキー場など豊富な地域資源に恵まれ、全国的にも高いブランド力が誇っているが、東海北陸道によって、通過地域や日帰り観光地となるなど衰退影響が懸念。広域観光圏づくりを進めるため、地域資源を活かした周遊・滞在型観光への取り組みが必要。

生活圏づくりの方向性

生活圏形成の仮説(案)

農林畜産業及び観光産業の活性化方策を融合するツールとして、人々が集い、交流する融合拠点(道の駅など)を活用した生活圏形成について検討する。

・特殊な地勢を利用した高冷地野菜は品質も良く高い評価を受けており、流通コストの削減やブランド化を推進することなどで、より収益性の向上が図られる潜在的な可能性を秘めている。

・豊富な地域資源を有する日本でも有数の観光地であることから、観光客に道の駅などで特産品を購入してもらうことにより、認知度を高め、ブランド化を推進する。

・特産品の需要が増えることで農林畜産業の活性化につながるとともに、各地域の道の駅などで取り扱う特産品の購入などをきっかけとした観光ルートが形成され、周遊・滞在型観光客の増加が期待される。

実現に向けた具体策の検討

社会資本の具体的な整備内容の検討

1.1. 調査方針骨子(案)

高山市の現況

- ・面積の92.5%が森林であり、可住地面積はわずか
- ・高山市全域が豪雪地帯及び特別豪雪地帯
- ・大学が無いことや就業機会が少ないため、大都市圏へ人口が流出
- ・医療、教育、商業施設が旧高山市に集中
- ・豊富な地域資源に恵まれた、日本でも有数の観光地
- ・歴史、伝統文化が残されている
- ・特殊な地勢を利用した野菜等を生産

活性化方策の立案

農林畜産業による活性化

- ・高冷地野菜等の飛騨ブランド化を推進
- ・高付加価値商品と販促等による収益性の向上
- ・建設業の人材・技術の活用と経営システム見直しによる林業の再生・活性化

融合拠点(道の駅(市内に8施設)など)

- ・飛騨ブランドの特産品販売
- ・名物料理(当地限定)
- ・先端技術を駆使した観光・特産品情報の提供

「食べる、買う、観る、体験する、学ぶ」
の情報発信拠点及び橋渡し

活性化方策の立案

伝統文化等を組込んだ観光による活性化

- ・世界遺産、文化遺産を組込んだ広域観光圏を形成
- ・飛騨地域共通の伝統工芸「飛騨の匠」による広域観光圏を形成
- ・観光に自然環境を組込んだ「エコツーリズム」の推進

- ・従事者(後継者)の確保
- ・関連産業の雇用創出
- ・伝統文化の継承
- ・水源かん養機能の保全
- ・山地災害の防止(荒廃防止)

社会資本整備による支援

- ・伝統文化の継承
- ・周遊・滞在型観光客の増加
- ・自然環境の保全意識高揚

- ・医療、通勤・通学、買い物など日常生活に必要な道路交通ネットワーク整備等の生活環境の確保・充実
- ・観光圏域の拡大、広域観光ルートの形成に必要な道路交通ネットワーク、情報提供システムの整備